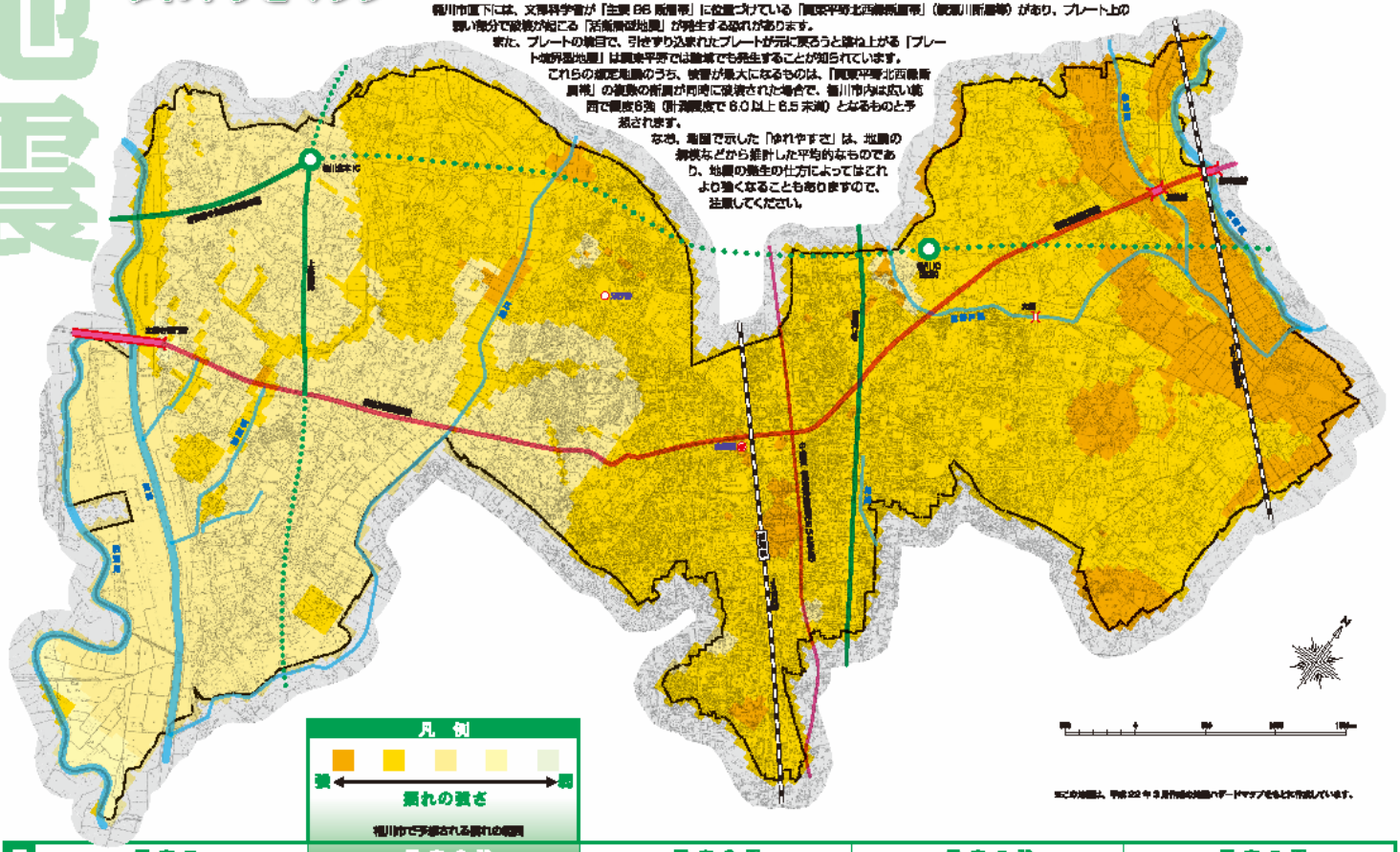
地震

ゆれやすさマップ

この地図は、福川市やその近郊で、理論的に想定される大地震が発生した場合の市内各地の「計測震度」（人体感覚、被害の程度などは参考にしない領域のみの測定値）を描いた「ゆれやすさマップ」です。
福川市直下には、文部科学省が「主要 86 断層帯」に位置づけている「関東平野北西縁断層帯」（荒川断層帯）があり、プレート上の弱い部分で破壊が起こる「活断層型地震」が発生する恐れがあります。
また、プレートの境目で、引きずり込まれたプレートが元に戻ろうと跳ね上がる「プレート境界型地震」は関東平野では陸域でも発生することが知られています。
これらの想定地震のうち、被害が最大になるものは、「関東平野北西縁断層帯」の複数の断層が同時に破壊された場合で、福川市内は広い範囲で震度6強（計測震度で 6.0 以上 6.5 未満）となるものと予想されます。
なお、地図で示した「ゆれやすさ」は、地震の規模などから推計した平均的なものであり、地震の発生の仕方によってはより強くなることもあるので、注意してください。



※この地図は、平成22年3月作成の地図ハザードマップをもとに作成しています。

震度と揺れの感覚

震度７	震度６強	震度６弱	震度５強	震度５弱
自分の意思で行動できない。耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破損するものがある。	はわないと歩くことができない。多くの家屋で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。	立っていることが困難になる。固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。	物につかまらないと歩くことが難しい。固定していない家具が倒れることがある。耐震性の低い住宅では、壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。	恐怖を覚え、物につかまりたくなる。電灯などは激しく揺れ、固定していない家具が移動することがある。電柱が揺れるのがわかる。

「気象庁震度階級関連解説表」をもとに作成

地震が起きる前にできること

●屋内のチェック

- 倒れやすい家具類や家具類は、しっかりと固定するか、安全な場所に移すなどの転倒防止器具等を取り付けたり、計画を練って家具で固定し直しましょう。
- テレビは高いところに置かないようにしましょう。
- 物やタンスの上に重いものを置かないようにしましょう。
- 窓ガラスや食器棚等のガラスは、飛散防止フィルムを貼り、割れて飛び散らないよう工夫しましょう。
- 吊り下げ式の照明器具は、チェーンなどで止めましょう。
- 戸棚の扉にはロック機器をつけて、中身が飛び出さないようにしましょう。
- 寝室には、できるだけ家具類を置かないようものがず、出入り口は、確保できるスペースを確保しましょう。枕元には眼鏡と懐中電灯を用意しておきましょう。
- 浴室や廊下には、できるだけ家具や荷物を置かないよう心がけ、滑り防止等を徹底しましょう。
- ピアノの転倒防止は、専門知識のあるメーカーに問い合わせましょう。
- 懐中電灯などは、手の届くところに置き、非常持ち出し袋や備蓄品の用意をして、内容物や賞味期限等を定期的にチェックするようにしましょう。

●屋外のチェック

- 倒れやすいブロック塀や門柱等は補強しましょう。
- 屋根瓦のゆるみや不安定なアンテナは修理しましょう。
- プロパンガスのボンベは、鎖でしっかり一箇所に固定しましょう。
- ベランダの植木鉢等の落下防止等をしましょう。
- 建築構造について専門家の診断を受け、必要な場合は、すじかい等の補強をしましょう。

助成制度の活用　福川市では、「耐震診断費補助」及び「耐震改修費補助」の二種類の助成制度を実施しています。詳しくは担当課までお問い合わせください。

福川市都市整備部建築指導課指導等グループ　TEL：048-788-3211

地震対策の10カ条

あわててむやみに行動するとかえって危険です。地震があったら、あわてず、下の10カ条を守って行動しましょう。

❶ まず身の安全を！

ケガをしたら火の始末や避難が遅れてしまいます。家具の転倒や落下物には十分な対策を。

❷ すばやく火の始末

揺れるようであればすばやく火を消します。火元付近には燃えやすいものを置かない習慣を。

❸ 戸を開けて出口の確保

揺れでドアが開かなくなることもあります。玄関、部屋のドア、窓などを開けて避難口の確保を。

❹ 火が出たらすぐ消火

万一出火しても天井に燃え移る前なら大丈夫です。あわてず消火を。

❺ あわてて外に飛び出さない

外ではガラスや瓦などが落ちてくることがあります。飛び出さず、冷静な判断を。

❻ 狭い路地やブロック塀には近づかない

ブロック塀や自動販売機は倒れる恐れがあります。すばやく避難を。

❼ 協力し合って応急救護

地域ぐるみで協力し合って応急救護の体制をとります。みんなで助け合いを。

❽ 山崩れ、崖崩れに注意

居住地の地盤環境を把握して、二次災害防止に心がけましょう。

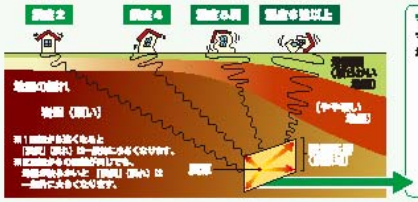
❾ 避難は徒歩で

マイカーでの避難は渋滞などを起こし救急出動の妨害になります。ルールを守る心のゆとりを。

❿ 正しい情報を聞く

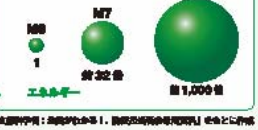
家族はひとつです。間違った情報にまどわされず冷静な行動を。

マグニチュードと震度



マグニチュードとエネルギーの関係

マグニチュードは1大きくなると、地震のエネルギーは約32倍になります。



「気象庁予報：地震予知とは？」「地震活動予測研究」をもとに作成

「マグニチュード」とは、地震そのものの大きさを表す尺度です。一方、「震度」とは、それぞれの場所における揺れの大きさを表す尺度です。すなわち、1つの地震に対して、マグニチュードは1つですが、それぞれの場所の揺れの大きさを表す震度は場所によって異なります。例えば、平成７年（1995年）兵庫県南部地震のマグニチュードは 7.3 で、このときの神戸市域の震度は7、大阪市内の一部の地域では震度5弱でした。地震波の伝わり方は、地盤の状況により異なります。一般的に、震源から遠くなると震度は小さくなります。また、地盤から上の軟らかい沖積層が厚いほど、揺れは増幅しやすい傾向にあります。

緊急地震速報

気象庁が地震の初期微動（約秒約7kmで進む P 波（疎波））を観測し、主要動（約秒約4kmで進む S 波（横波））が到達する前に、各地の震度を予測し、最大震度が5弱以上と予測された場合、震度4以上が予測される地域に対してテレビ、ラジオなどを通じて発表されます。

福川市では、防災情報メールで直接的に緊急地震速報を発信するしくみをとっています。各携帯電話会社でも、エリアメールと呼ばれる緊急速報情報サービスを実施しています。